

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(H29年度:計画作成主体:北栄町農業再生協議会)(鳥取県)

取組の概要

取組の概要 : 花き生産新技術の導入による産地力の強化
対象品目 : ストック(産地面積:8.4ha)
主な取組主体 : 鳥取中央農業協同組合
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
導入施設等 : 生産支援事業(遮光資材の導入)



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

当地域におけるストックは、スイカ後作の振興品目として位置づけられている。しかし、気象条件により生育・開花時期が安定しないなどの問題がある。そこで、施設内環境を制御し、生育・開花を調節することにより、製品率を上げ、気象の変化に左右されることなく、市場から要望の高い時期(年内12月～1月)の出荷量を増産することで、高単価での販売を行い、収益性の増加、地域全体の販売額の増加及び所得の向上を目指す。



【産地の体質強化に向けた方策】

昇温抑制効果の高い遮光資材やLED照明の導入により花芽分化や草丈伸張を促進させることで、従来より計画的に出荷できる産地・ブランド化の確立に取り組む。

推進体制

地域の関係者(鳥取県、北栄町、JA鳥取中央)が一体となり、事業を推進。

地域における独自の取組

○県単独事業「鳥取の花いきいき総合戦略事業」により、LED電照器具や出荷調製機器などの導入を支援。

○花き栽培紹介パンフレットを作成し、スイカの後作栽培に取り組むようスイカ栽培指導会で紹介したり、新規参入募集のための研修会(座学、現地見学)を実施したりするなど積極的な参入推進を図っている。

取組成果

【事業実施による直接効果】

遮光資材を活用した開花調節技術の活用による出荷本数の増加、単価の向上、販売額の増加

【事業実施による間接効果】

スイカ栽培者への後作栽培の推進による生産者の増加



販売額が34%増加

～ストックの販売額～

